

# 物流とエネルギー供給の拠点 石狩湾新港



「石狩湾新港地域」は、札幌市に隣接し、札幌駅から15km、車で30分の好位置にあり、北海道の日本海側の玄関口となる国際貿易港「石狩湾新港」を核とする道内最大級の工業団地です。操業社数は700社を超え、就業者数約20,000人という全国有数の企業集積地でありながら、面積の約3分の1が緑地・公園で、人と環境に配慮したゆとりある就業環境を提供しています。

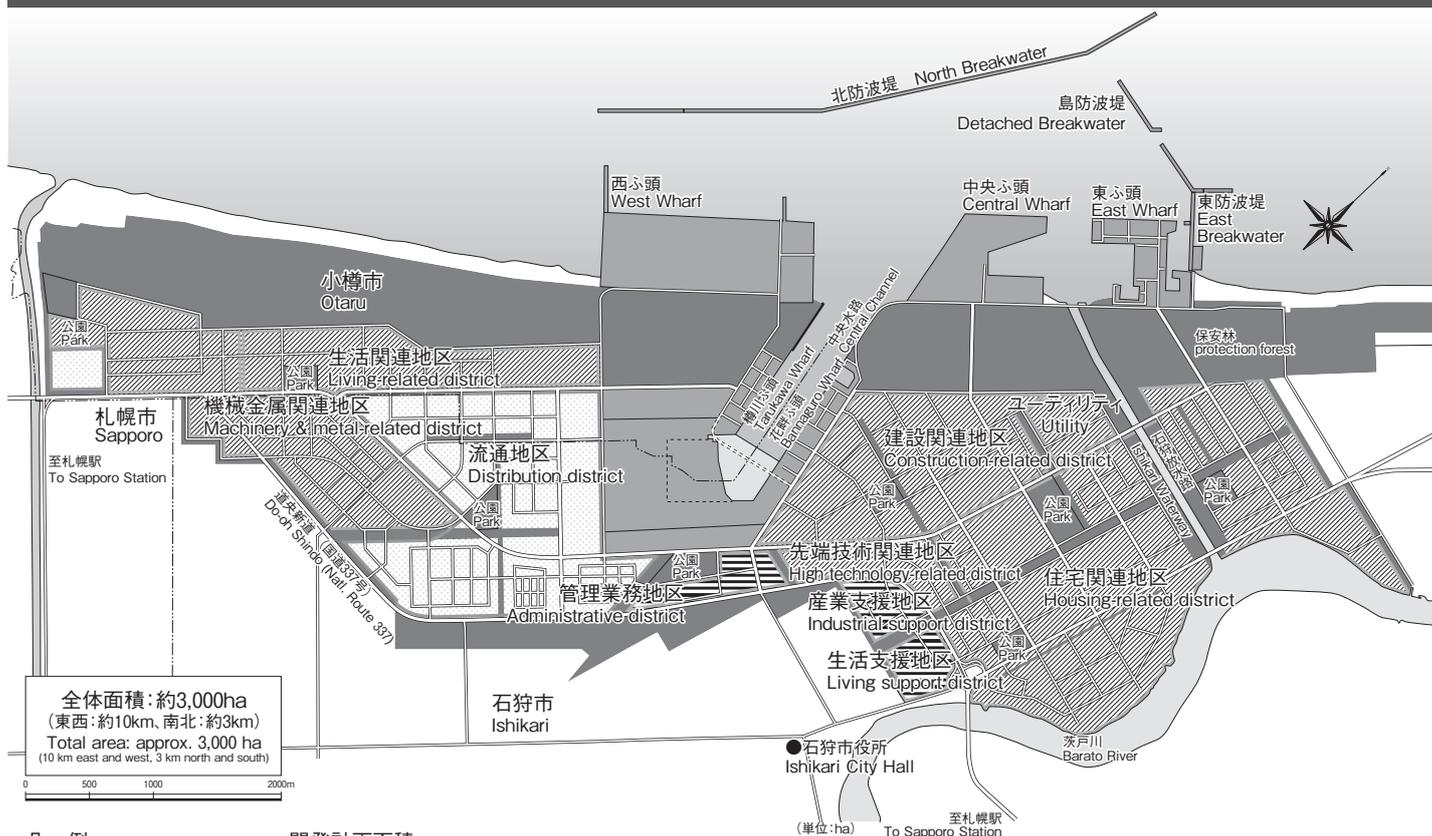
また、北海道が持つ冷涼な気候特性を活用した省エネルギー型の大規模データセンターなど、多様な産業の集積が進んでいます。

産業インフラも充実しており、上下水道・工業用水道、6,600Vの高圧

電力と66,000Vの特別高圧電力や、都市ガス、光通信サービスなど、事業に必要なさまざまな環境が整っています。

同地域では石油製品やLNG(液化天然ガス)の受入基地が稼働しているほか、近年では複数のLNG火力発電所が稼働し、産業・エネルギー拠点として発展を続けています。さらに、再生可能エネルギーによる発電施設の導入拡大も進んでおり、札幌圏を中心とした北海道のエネルギー供給拠点として一層の発展が期待されます。

## 石狩湾新港地域 全体図



全体面積：約3,000ha  
(東西：約10km、南北：約3km)  
Total area: approx. 3,000 ha  
(10 km east and west, 3 km north and south)

凡例 Legend

	工業地区 Industrial district
	流通地区 Distribution district
	管理支援地区 Control support district
	港湾地区 Port district
	緑地・公園 Green zone and parks

開発計画面積 Planned development area (単位: ha) (Unit: ha)

区分 Division	業務用地 Business zone	緑地・道路 Green zone and Road	計 Total
工業地区 Industrial district	876	202	1,078
流通地区 Distribution district	263	60	323
管理支援地区 Control support district	69	26	95
港湾地区 Port district	208	268	476
共通地区 Common district	7	1,043	1,050
計 Total	1,423	1,599	3,022

2023(令和5)年2月現在



石狩湾新港は北海道の日本海側を代表する生活物資・産業用資材・エネルギーなどの物流拠点です。1994(平成6)年に関税法に基づく国際貿易港となり、続いて植物防疫港・動物検疫港の指定を受けました。その結果、取扱貨物量は年々増加し、2019(令和元)年には過去最高を記録しました。また、外貿コンテナ取扱個数においても道内2位と、急成長を遂げています。

平成18年には水深14m岸壁の供用が開始され、5万トン級の大型船舶の入港が可能になりました。このほか、多様化する物流ニーズに対応するため、荷役時間の短縮化や寄航スケジュールの効率化・省略化を図るガントリークレーンの配備、コンテナヤードと直結した定温機能付くん蒸倉庫の整備やリーファーコンテナ用プラグの増設など、国際コンテナ基地として確かな役割を果たしています。



### ■ 부산釜山港定期コンテナ航路

石狩湾新港には、世界有数のコンテナ中継基地・釜山港(韓国)などと結ぶ外貿コンテナ航路が開通されています。釜山港からは、ロシア・中国・東南アジアをはじめ北米・南米・オセアニア・ヨーロッパへと全世界につながっており、大消費地の札幌に最も近い立地環境と、国際コンテナ港に必要な機能が充実した石狩湾新港は、札幌圏の物流を担う国際貿易港となっています。

### ■ 5つの埠頭5つの埠頭

**花畔埠頭:**ガントリークレーンが配備された国際コンテナ輸送基地。道内最大級のセメントサイロも整備

**中央埠頭:**灯油・ガソリン・LPGなどを受け入れ供給する、道央圏のエネルギー拠点。2012(平成24)年には道内初の大型LNG基地が稼働

**東埠頭:**再生資源として、海外に輸出されるスクラップや建設用資材の砂や砂利を扱う

**樽川埠頭:**背後に大型冷凍冷蔵倉庫群を抱え、水産品をはじめとする食糧のほか、鋼材、鋳産品を取り扱う物流基地

**西埠頭:**5万トン級の大型船舶が入港できる多目的外貿ターミナル

